

亀崎地区ささえあい活動計画(第2期) (2022年度~2024年度)



住んでてよかった あたたかい街 (亀崎・有脇)



介護予防・生活支援協議会とは、「住んでてよかった」と思える、誰もが安心して暮らし続けることのできるまちを、地域のみなさんと一緒につくっていくことを目的としています。
「困った」と思った時に、気軽に「困った」と言える、「お互いにささえあうことのできるまち」を、みなさんとともに考えていきたいです。



これまでの3年は…

亀崎中学校区では、平成28年度より生活支援コーディネーター(地域のささえあい推進員)を設置。令和元年度に、地域のみなさまに実施したアンケート調査結果をもとに、介護予防・生活支援協議会で「亀崎地区ささえあい活動計画(第1期)」を策定。まちづくりの目標を「住んでてよかったあたたかい街」と定め、この計画に基づき、地域のみなさんの協力を得ながら目標達成に向けて進めてきました。

これまでの3年間の経過を踏まえ、今後も「住んでてよかった」と思える亀崎中学校区をみなさまとともに目指します。

子どもたちが地域の課題を知り行動するしくみ

地域の
つながりづくりを
進めてきました



高齢化が進む亀崎中学校区で、子どもたちが、地域で暮らす高齢者とつながり、その暮らしぶりを知ることで、「自分のできること」を実行するしくみができました。

KOOジュニア

亀崎中学校の生徒有志が、亀崎小学校区で活動する「亀崎思いやり応援隊」と共に、地域の高齢者の困りごとのお手伝いをすることで、互いに気にかけて合うきっかけになっています。

地域課題を住民と学ぶ場づくり



地域の方が気になっていること(認知症や健康のこと等)を、亀崎地域で活躍する専門家を講師に講座を開催。「困った」と思った時に、近くに聞ける人がいるって安心ですね。

住民同士が集う場づくり



「歩いていける距離に気軽に集える場があったら…」そんな声をもとに、地域のみなさまと一緒に集いの場づくりをしています。顔の見える関係づくりへの第一歩です。

地域内事業所とのネットワークづくり

相談しやすい
環境づくりに
取り組みました



亀崎中学校区内に拠点を置くふくし事業所のみなさまと地域情報や地域の課題を共有し、連携を図ることで、地域住民に必要とされる取り組みの実施に向けた検討をしています。

その取り組みの一つとして、地域の方が、気になったときに気軽に相談できるよう「ふくし相談窓口」を各事業所で実施しています。

身近な場所で「相談」ができる場づくり

亀崎小学校区では、亀崎ささえあいセンター(通称:駅前はうす)を中心に、ふくし事業所のみなさまと、小学校区内のさまざまな拠点で出張相談を実施しています。事業所の職員の顔を覚えてもらうきっかけにしています。

有脇ふれあいセンターでは、月2回、生活支援コーディネーターが「ふくし相談会」を実施しています。「どこに聞けばいいのか」「相談、というほどではないけれど…」など、気になったときに、気軽に相談できるしくみのひとつです。

緑ヶ丘区では、市営緑ヶ丘住宅集会所で社会福祉協議会の職員が、2か月に1回程度、出張相談を実施しています。「市役所に行くにはちょっと遠い…」そんな声にお応えできればと思っています。

住んでてよかったあたたかい街



いろいろな
ご意見が
ありますね。

令和3年度、亀崎中学校区内でアンケート調査を実施しました。746名の方にご回答いただきました。ご協力ありがとうございました。

このアンケート調査の結果とこれまでの3年間の取り組みをふりかえる中で、今後取り組むべき課題がみえてきました。

【アンケート結果から見えてきたもの】

内容		3年前	今回	理由
ちょっと困ったときに気軽に相談できないと感じている		29%	27%	ほんのわずかな減少ではあるが、理由として3年前に多かった「親族への相談」以外に、「身近な場所に友人がいる」と回答する方が増加。しかし、将来的な不安はある
買い物・病院に出かけづらいと感じている	買い物	32%	39%	「近隣にない」ことも理由の一つとして挙げられているが、免許返納後の公共交通網の不足を大半の方が不安材料としてあげている
	病院	30%	36%	
家族や自分が認知症になっても安心して暮らせるまちがいい		43%	45%	高齢化が進む中で、できるだけ住み慣れた地域で安心して暮らし続けることを希望している方の割合がわずかではあるが増加している
こんな地域だったら「いいな」と思う		<ul style="list-style-type: none"> ○年齢を問わず交流できる場所があるとよい ○気軽に地域の活動に参加できるまち ○「役員」「代表」のような役にこだわらなくてもできる地域行事があるとよい ○地域、地域に活発なリーダーがいるまち ○子育て世代が住みたいと思えるようなまち ○子どもや高齢者（認知症）を地域で見守り、事故や災害があったときは声がかけるまち ○若い世代がもっと積極的に地域活動に参加できるまち ○昔のことも大事だけれど、若者の意見も聞き取れて、時代にあったまち 		

取り組むべき課題

- 将来に向けて、身近な地域のつながりがより求められている
- 誰もが、出かけた場所に出かけられる
- 市内高齢化率1位でも、安心して暮らせるまち
- 地域のつながりや地域活動を多世代にひろげる
- 誰もが地域づくりや地域活動に参加できる

わたしたちが、「いいな」と思うまち、わたしたちの力で実現!

「ささえる」「ささえられる」ばかりでない互いに「ささえあう」まちの実現



みなさんと一緒に、 こんな取り組み、はじめます！

アンケートの結果等から出た、「取り組みたい課題」に対し、今後、具体的にどのような活動を進めていくかまとめました。

取り組みたいこと

具体的な活動

より身近な地域での「つながり」を作る

- ★互いに気にかけて合うことのできるしくみや資源の開発
具体的な動き)
 - 歩いていける距離に交流の場の検討、開設
 - 多世代交流の場づくりへの協力
 - 子どもたちが地域課題を知る取り組みの継続と拡大
 - 地域課題となることが予想される事柄を住民と学ぶ場の開催

地域の「つながり」や「地域活動」を多世代にひろげる

- ★地域活動に参加しやすいしくみの検討
 - 地域活動者や団体の活動を知ってもらうしくみづくりの継続

市内高齢化率 1 位でも、安心して暮らせるまちの実現

- ★「困ったとき」に気軽に相談できる環境づくり
具体的な動き)
 - 地域住民同士が、地域課題を共有する場づくり
 - ふくし事業所との連携による「ふくし相談窓口」の活性
- ★「困りごと」を共有できる場づくり
 - プラチナカフェ、ピアカウンセリング等の取り組みの検討



誰もが、出かけたい場所に出かけられるしくみの検討

- ★新たな移動手段についてのしくみの検討
具体的な動き)
 - 公共交通バスの使い方と新たな移動手段について継続的に検討

わたしも
まちのために
「できること」
考えてみたいわ!



目指すまちの姿

- 子どもも大人も大きな声であいさつできる
- 隣近所で気にかけて、互いにささえあう
- いつでも気軽に相談できる
- 認知症等になっても安心して暮らすことができる
- 行きたい場所に行ける
- すべての人に役割があり、元気に楽しく暮らすことができる

みんなで
一緒に
考えて
いきたい
ですね!



発行：亀崎地区介護予防・生活支援協議会



山本宏巳(亀崎区長会：令和元・2年度)日置忠司(亀崎区長会：令和3年度)/石川丈夫(有協1区：令和元年度)近藤倉治(有協1区：令和2・3年度)/藤牧実(亀崎地域総合福祉センター)/石川啓二(亀崎地区民生委員児童委員協議会)/金子金子(有協長生会：令和元・2年度)/加藤博史(株式会社ナチュラル)/間瀬桂子(久栄丸呉服店)/服部聡(ときわ調剤薬局：令和元年度)毛受塚登(ときわ調剤薬局：令和2・3年度)/溝口昭弘(亀崎思いやり応援隊)/大橋多加予(NPO法人亀崎まちおこしの会・半田亀崎つながりハウスみづほ)/白石成明(日本福祉大学)/木下稔章(亀崎中学校)/半田市/半田市社会福祉協議会